

9-2 带状疱疹（たいじょうほうしん）

带状疱疹（帯状ヘルペス）は高齢者に多いウイルスによる皮膚疾患。

疱疹そのものは治癒しやすいが、後遺症として痛みがあり、早期発見、早期治療で後遺症を少なくする。

主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 主に体幹部で左右一方に帯状に発赤、水疱、びらんなど皮膚が変化する。 ● 痛みは早期に生じることが多く、皮膚の変化が軽くても痛みが強いこともある。 ● 目や咽頭部に起こると、痛みの他に視力障害や嚥下障害を起こすことがある。
生活上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 神経に激しい痛みがはしるため、ひどい場合は転倒する場合もある。 ● 痛みのために不安になり日常生活が困難になり、見守り・介助が必要な場合がある。 ● 後遺症を残さないためにも、頭や顔を含めた体の左右どちらかにピリピリした痛みを感じたり、コリのような違和感があったらすぐに受診する。治療が遅れると重症化することがある。 ● 予防は、規則正しい生活をする。生活リズムの乱れは体力の低下やストレスの原因になる。
ケアマネジメントのポイント	<p>＜支援者の留意点・視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 痛みが激しい場合、転倒の危険性が高いため移動時に見守りが必要な場合がある。 ● 転倒防止のため移動時は手すりや家具等の支えが必要。 ● 带状疱疹の皮膚症状が治ったあと、3ヶ月以上経っても痛みが続く場合がある。受診し服薬等の対応をしながら、痛みばかり集中するのではなく普段の生活ができるように支援することも大切である。
代表的な薬	<ul style="list-style-type: none"> ● 抗ヘルペス薬（ファムビル、ゾビラックス、バルトレックスなど）